

令和4年度 第2回豊中市生活支援サービス部会 議事録

令和5年(2023年)1月31日(火)

午後2時～午後3時10分

第二庁舎3階 大会議室 及び WEB

《出席状況》 豊中市生活支援サービス部会員5名中5名出席

| |
|---------------|
| 豊中市生活支援サービス部会 |
|---------------|

| |
|--------------------------|
| ◎大野委員、秦委員、今井委員、村上委員、樋口委員 |
|--------------------------|

(◎＝部会長 委員名簿順)

| |
|-----|
| 事務局 |
|-----|

| |
|-----------------|
| 福祉部：甲斐次長兼地域共生課長 |
|-----------------|

長寿安心課：島田係長

長寿社会政策課：山岸課長、凶師主査、溝田主事、中根

豊中市社会福祉協議会：勝部室長、佐藤課長、吉田課長

《傍聴者》2名

□議題

- (1) 令和4年度生活支援コーディネーター活動報告について
- (2) 令和5年度生活支援コーディネーター活動計画(案)について
- (3) その他

□議事内容

部会長

皆様こんにちは。本日はお忙しい中ありがとうございます。

それでは、令和4年度の第2回の生活支援サービス部会を始めさせていただきます。

議題1、令和4年度生活支援コーディネーター活動報告について、事務局よりご説明をお願いします。

議案1

事務局

■令和4年度生活支援コーディネーター活動報告について

【資料1】「生活支援コーディネーター実施内容（R4.9～12）」の説明

部会長

活動の報告ということで、かなりたくさんご報告をしていただいたかと思いますが、皆様のほうからご質問やご意見がございましたらお願いします。

コロナ禍は依然続いてはいるものの、少し活動が復活されたようなものもあり、動きというものが出てきたかなと、次年度はそれがもう少し広がるのかなと思います。自粛と制限の多かった2年間に比べて令和4年度の取組みの中で、少し再開されたことによる、その前の2年間との違いみたいなものもあるかもしれません。何か感じておられる手応え、もちろんこういうことで久しぶりにすごく良かったというものもあるかと思うのですが、久しぶりだからこそその難しさもあれば、もっとしたいこともあるかもしれませんし、1年されて全体として何か感じておられるところ、ニーズなども含めて、皆さんがご質問を考えておられる間に事務局から少しお話を足していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

事務局

はい、コロナ禍で本当に緊急事態宣言の頃はもう何もできないような感じでしたし、いろいろな活動が全部自粛ということでしたが、2年目、3年目に入的过程中でワクチン接種もかなり進んだということもあり、1つは「ぐんぐん元気塾」があったことですね、それがとても皆さんにとっては励みになったということで、スタート時点では週に1回体操をやるというのはスタッフにとってはかなり負担が大きい感じでしたが、週1回、そこに行くとみんなに会えるということで、孤立しがちなコロナ禍でもそれがあったことがすごく救われたというご意見が多くて、地域としてもほかの活動はなかなか再開できなくても体操だけはフレイル予防でやりたいというご意見もたくさんありました。そこで分散開催などしながら地域で実施してきていただいたということで、継続的に人数が伸びてきたというのが1つあります。

それから、一緒に食事をする会食会とかカフェなどが大きな活動の柱だったんですが、一緒に食することができなくなりました。会場で一緒に食べると定員が30人とか40人とかという制限がかかりますが、キッチンカーやテイクアウトでお弁当を配布するという方法に変えますと、人数の制限が要らないので希望者が倍に増えたところとか、中には3倍ぐらいに増えたところがあります。

特に男性が、これまでは一緒に食するとなると尻込みされていた方々が、お弁当を取りに来るだけとかキッチンカーでお弁当を取りに来るだけといったことであれば気軽に参加していただけることで、男性の見守りや安否確認がしやすくなったという点も、けがの功名としてあったかなと思っています。

5月に入りますと、コロナも2類から5類へ移行するという事で大きく転換していきませんが、従来どおり集まって食べる方法だけよりも例えばテイクアウトのようなやり方で多くの方々につながっていく方式も併用型で考えていくほうが、より多くの人たちと結びつくことができるのではないかと、今回気づいた点でもあります。

それから、巣籠もり状態になっているということで、おうちの中でできる活動をこの間ずっと模索していたわけですが、1つはお針箱です。75歳以上の女性はほとんどの方がミシンで色々なものを手作りされているということが改めて実感として分かりました。そういう方々のニーズとといいますか、社会参加の手法としてマスクを作っていたことで、非常にマスクを作れるミシン人口が多いということが分かったので、そこを今1つの柱にしたことで、また新たな層が一つグループとして立ち上がっていったということ。それからおうちにずっと巣籠もりしていて、たんすを動かしたいとか部屋の模様替えをしたいといった高齢者が多かったことで、福祉便利屋の活動についてはかなりニーズが継続的にあったというのもこのコロナ禍での特徴かなと思っています。

部会長

本当にコロナ禍で新たに増えてきたことも沢山あるのだと感じました。私も先日テレビを見ていましたら、コロナ禍で若い世代もミシンを買った人が多いという話もあって、ただ一定年齢より上の方はミシンを持っている方が多いですし、ちょっとしたことならできるよという方が多いので、今は依頼のほうが少ない状況ということですが、マッチングをすればすごくありがたい活動だと思います。

事務局

もう一点、「おれんじカフェ」について、この間、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターで各圏域ごとにこの「おれんじカフェ」を増やしてきました、コロナ禍なのに「おれんじカフェ」は18か所ぐらいになっていると思います。それはこれまで介護中の方々が、介護者ではなくて当事者支援はいろいろあったんですが、介護者の人たちもいろいろ相談する場所がなかったり、話し合える仲間がなかったりということなので、介護者の方々と当事者の方々が一緒に行ける場所、しかも各圏域、小学校区に近いところでどんどんつくっていっていますので、初期の認知症の方であれば十分歩いて行ける距離ということで、お散歩かたがた来ていただけるということもありまして、これは認知症理解にとっては地域の方々もすごく学びになりますし、関わり方や本人のよいところを見つけ出すということではご家族にとっても発見の場でもありましたので、この取組みがこのコロナ禍大変な時期ではありましたが、広がったこともとても大きな成果だったと思っています。

部会長

ありがとうございます。

皆さんのほうからはどうでしょうか。何かもう少し具体的にとか、あるいはもう少し例えば広い観点からのご意見とかもよいかと思うのですが、いかがでしょうか。

部会員

「おれんじカフェ」について、保育園等でも開催すると老若男女が参加しやすい形で非常にいい取組みだなと思うんですが、この高齢者の方々と保育園の子どもたちのセッションというのはどんな形で行われているのですか。子どもと高齢者との交わる接点があるというのは非常に大事なことだなと思ひまして、ここを詳しく聞きたいなと思ひました。

事務局

ありがとうございます。

この「おれんじカフェ」をしようと思いますと、継続的に使えて、安価または無償で借りられる場所というのがとても大切になってくるんですが、今豊中で生活圏域ごとに地域福祉ネットワーク会議というのをやっています、そこは高齢とか障害とか子どもに関する施設の方々も皆さんご参加されるんですが、必ずしもそのエリアに高齢者施設がぴったり当てはまる場所があるかどうかといたら決してそういう場所ばかりでもないです。そこで熊野田校区にある「おひさまっこ保育園」が地域に開放できる場所を提供していただきまして、そこに行きますと入り口のところで赤ちゃんたちがお散歩用のベビーカーに入っていたり、よちよち歩く子たちがいたり、お散歩に出かける時間帯に大体始まるので、すごく皆さんの顔が笑顔に変わられます。

コロナ禍ですので今は保育園の中も部外者と接触するのは抵抗があり、ナーバスになっておられるとは思いますが、今後のところでいうと赤ちゃんボランティアみたいな、ほかでも今まで過去にグループホームではやったことがあります、赤ちゃんたちと交流できるような手遊びとかを一緒にしてもらえるような環境ですので、今後何かそういうことも進めていけたらいいなと思っています。

保育園ですので赤ちゃん人形やキューピー人形などもあって、だっこしてにこにこされて、昔のことがよみがえられて元気な姿が見られるという雰囲気がありますので、委員がおっしゃっているような新しいチャレンジを、もうあと3か月、4か月ぐらいしたらまた動けるかなという感じです。

部会員

ありがとうございます。ママたちの居場所とかにはならないですか。脱線するかもしれませんが、ママたちも子育てなど結構大変だと思います。例えば、高齢者の方といろんな雑談ができた、悩み相談ができたといったところのコミュニティができる場はないのかなと、老若男女が子どもたちを通じてママさんたちの助けになってもいいのかなと感じましたが。ママさんたちの参加状況はいかがでしょう。

事務局

地域共生ホームの「和居輪居（わいわい）」というところは、もともとこれまでは高齢者施策ということで、ここでこういうことを言っていていいかわかりませんが、高齢者の人は高齢者だけの支援といった捉え方が多かったんですが、「豊中あぐりパーク」は定年後の男性が児童養護施設の子どもさんたちとお芋掘りしたり、凧揚げのお手伝いをしたり、ファミリー・サポート・センターを利用していらっしゃる母子は近くにおじいちゃん、おばあちゃんがないので、お年寄りたちが凧揚げのたこの引き方を教えてあげたり、それから認知症の人が頑張って凧揚げしたり、外国の人たちが日本文化を学ぶということで一緒にやったり。今おっしゃったように私たちもあえていろんな人を混ぜることでそれぞれの役割が出てくることの面白さを考えていますので、本当はもっとそういうことを積極的にやりたかったんですが、どこから感染が広がったか、危険だみたいなことで、特に施設はなかなか外部の人を入れること自体が禁止されているところが多いという面もありましたのでこれまで苦戦していましたが、方向としては高齢者の人たちがいるところで赤ちゃんを見てもらって、お母さんたちもほっこりしながらお茶

を飲んだり、そういうスキームができていくと1つのサロンが多機能になりますので、そういったことがこれからできていくようになればいいなと思っています。

部会員

本当に様々な活動をされていて、ある種の地域性はあるにせよ全国のモデルになるような活動をされているのかなと思いました。

テイクアウトの部分もコロナだからこそのお話だったと思いますし、「おれんじカフェ」のことだったり、サロンの多機能化みたいところはコロナでもというお話で、すごい活動をされているなと思いました。

瑣末なことをお伺いしますが、福祉お針箱サポーターで1作業が400円からとなっていたと思うんですが、この400円の根拠と、その400円って高齢者の方にとったら臨時収入みたいになるんでしょうか。

事務局

「福祉便利屋事業」という事業がありまして、これは15分200円、いわゆるこれまで生活支援サービスは1時間800円で活動をしておりまして、1時間800円で活動をしていたのを例えばごみ出し1回、おうちからごみを運んで外へ出すのが10分、15分で終わる話を800円払うということになるとかなり負担感が大きいということがありますので、それは単価を下げて時間を刻んで、そして大型ごみであればお二人必要になるのを800円、800円払っていただくと1,600円で1作業ということになるのは非常に利用者の方の負担が大きいということで15分200円、最大400円で大型ごみが出せますよというようなスキームで考えたというのも一つあります。

お針箱の場合は作業工程がかなり複雑です。例えば、ボタン1個つけるぐらいの話でこれを400円は高い感じがしますが、ボタンを全部付け替える場合、ボタン自体を買いに行くところから始まったり、サイズ直しなんかも全部ほどいてやり直さないといけなようなものも出てきますので、基本400円と言っていますけれどもそこはもう作業に応じて話し合いで決めていくみたいなこともあります。

服ですので、出来栄えやクオリティーについても結構いろいろとお話が出てきます。民間のいろんなところの値段なども調べた上で半額以下ぐらいのところさせていただいていますけれども、値段ありきではないので、簡単なことであればもうボランティアでされるようなこともあるかなというところで実施しております。

部会員

ありがとうございます。

服でも言わば使い捨てに近いような時代なので、すごくいい取り組みだなと思いました。私の母親も50年そういう仕事をしていて、私はそれで育ったので本当に響きました。個人的なことですみません。

もう少しだけ瑣末なことをお聞きしたいのですが、「若い介護者の会」ですが、どのあたりからが「若い」になるのかなといったところと、それともう一つはスマホ講座でデジタル戦略課の方に協力いただいているということで多分プロなんだろうけれども、ひょっとしたらプロ以外の方も今後の方向性としては考えられるのかなと思ったんですが、その2点、いかがでしょうか。

事務局

「若い」は、いわゆる今世間を騒がせているヤングケアラーの子どもたちという方々を対象にしているわけではなくて、20代、30代、40代、子育てと介護をダブルでやっ

ておられるとか、あるいは8050、介護離職をして家で介護をされているような方々が集まっておられます。

そもそもお仕事をしていたけれども、父親、母親の介護がきっかけでもう仕事を辞めざるを得ないとか、あるいは当初は縁談が決まっていたけれども介護をするということで破談になったとか、いろんな課題が介護が大きいのしかかることで出てきます。しかも今一人っ子が多いですからお一人で両親を見られていたり、一人っ子同士で結婚をされている場合は1人で4人とかその上のおじいちゃん、おばあちゃんまで6人を見ていらっしゃる方もおられます。本当に専業主婦でいたりなんかすると、全部その人にかかってきたりといったこともあって、そういう苦しさみたいなことについてほかの兄弟とか、あるいはほかの人たちにどんなふうに話せるかとか、それから自分のリフレッシュの方法、リフレッシュしていいのかどうかみたいなことについての思いだったり、年金や貯蓄の問題、いろんな課題があります。老老介護で介護されているような方々は「おれんじカフェ」に今たくさん参加されていますが、自分たちはそういう場所に行っても話が合わない、高齢者同士で支えている人たちとは全然話が合わないので自分たちの年代で介護している人たちと話すことで救われる気持ちになるということで交流をさせていただいたり、今回LINEのグループができていますので、自分のつらいことや困ったときに、そのLINEグループの中で情報交換やつながりをつけていながら相談ができるような関係性をサポートさせていただいているというのが現状です。

続いてICTです。

事務局

市のデジタル戦略課から業者の方に来ていただきながら進めてきました。

具体的な話には至っていないのですが、本格的にスマホを学びたいというよりはちょっとしたこと、例えばお孫さんにスマホを持たされたんだけど、どういうふうに使ったらいいかよく分からないとか、メールが送れるようになりたいとか、写真が送れるようになったらとか、といったニーズは実は意外とあるのかなと思ってまして、それぐらいのことだったら協力できるよ、教えられるよといった方も出てくるかなという想いもあり、各校区で設置している「福祉なんでも相談」の窓口気軽に相談に来てもらい、サポートする体制ができればいいなと思っています。

事務局

それから、スマホ支払のアプリをインストールするのはいいけれど、間違ったら犯罪に巻き込まれるんじゃないかといった心配があり、お孫さんがいたりおうちでそういうことを普通にできる人がいれば簡単にできることが、高齢者だけではできない部分がありますので、私たちが今やっていることというのは地域の中で新しい家族をつくるような取組みなので、地域活動で参加をしている人たちの中だけではなかなか若い人がいませんから、この間から阪大生とも繋がりをつくろうとしています。定期的にそういう方々とも触れ合えるような場もつくっていかないと、継続的に事業所や企業さんだけに頼っているとそのうち料金をと言われそうなので、そこまでの話でもないことも多いので、そういったことができるように考えていくのが次の課題だなと思っています。

部会長

ありがとうございます。

そうしましたら、令和4年度の内容につきましましていろいろとご質問いただきましたが、おおむねこのような形でよろしいですか。

それでは、議題の2の令和5年度の生活支援コーディネーター活動計画（案）です、こちらについて事務局よりご説明をお願いいたします。

議案1

事務局
部会長

■令和5年度生活支援コーディネーター活動計画（案）について

【資料2】「令和5年度生活支援コーディネーター活動計画（案）」の説明

ありがとうございました。

大きく変えるということではなく、これまでやってこられたことをきちっと継続されて足場を固めるということかなと思います。

次年度、令和5年度は生活支援体制整備事業の実施計画の最終年度に当たる時期でもありますから、そういったことも踏まえて令和3年からの3年間の、コロナで計画を立てた頃と蓋を開けると随分違っていたかもしれませんが、3年間に着手できたことと見えてきた課題、また大きな目標である住民が主体となって地盤を醸成して多様な活動主体を生み出すのだということがどこまでできたのかということ今年度の実施を踏まえて見直すということが大切なのかな、それを踏まえたうえで次期の計画に入っていくというそういうことかなと考えております。

皆様から何か次年度の計画案につきましましてご意見やご質問はございますか。

部会員

計画のことでは総合事業で生活支援コーディネーターの事業が始まって7年、次が8年目ですか、多様な活動をされていると思います。

第1層のところでは年に1回、生活コーディネーターの活動をニュースにされて先ほども見せていただきましたし、年2回発行されて年1回は全戸配布されているということです。ちょうど去年もこの場で言わせていただきましたが、ホームページではそれがアップされていないようです。何かこれは紙が重要であってウェブ上ではあまり意味がないというふうに意図されたものなののでしょうか。

事務局
部会員

ウェブ上に掲載していますが、確認できませんでしょうか。

申し訳ありません。私の見たページが違っていただけなのか、2021年までは確認できましたが、2022年で最低1回は発行されているのかなと思いましたが、例えば先ほど見せていただいたのは掲載されていますか。

事務局

掲載されているはずだと思いますが、意図的に掲載していないというようなことはありません。

部会員
部会長

わかりました。

どこかに掲載されているということですので、また確認をお願いいたします。

先ほど令和4年度の活動の紹介の中でかなり丁寧に現在の現状も含めて説明していただきましたので、そういった活動、あるいは背景を踏まえた上で継続していただけるといいことかなと思っております。

そうしましたら、皆様から特に追加のご質問、ご意見がないということなので、この令和5年度の計画（案）についての審議という点ではこれでよいかなと思います。

事務局のほうから何かございますか。

事務局

今のご審議をもちまして生活支援コーディネーター計画につきましては、審議会でご承認いただいたということですのでよろしいでしょうか。

部会長

はい、よろしいですね。ありがとうございます。

事務局

先ほどの委員からのご質問につきましては、いま一度確認をさせていただきたく思いますが、これにつきまして社会福祉協議会のほうからもお答えをさせていただきましたとおりロコミを主眼にしました周知、コーディネーターニュースの発行でございますが、デジタルでの掲載はしないという考え方ではございませんので、改めて掲載状況を確認させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

議案3

事務局

■その他

次年度の生活支援サービス部会について

部会長

そうしましたら、以上をもちまして生活支援サービス部会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。